

Bulletin of  
the Yokohama Phytosociological Society, Vol. 52  
1985, Yokohama/Japan

高浜原子力発電所の  
植物群落の動態に関する調査・研究 III

Daueruntersuchung der Vegetations-Dynamik in der  
Umgebung Takahama-Atomkraftwerks (Fukui-Präfektur, Japan) III

昭和58年度報告  
Bericht über die 3. Jahren 1983

宮脇 昭・鈴木邦雄  
(横浜国立大学)

von

Akira MIYAWAKI, Kunio SUZUKI,  
(Yokohama National University, Yokohama)

1 9 8 5

横 浜 植 生 学 会

The Yokohama Phytosociological Society, Japan

## はじめに

新しい産業立地、エネルギー基地の建設に際して、周辺の自然環境がどのような影響を受けるかの予測調査は重要視されている。しかし植物や植生などの生物科学の分野から厳密な具体的予測は長期的なデータの集積が求められ、同時にかなり困難を伴う。また自然の開発、各種建設作業の実施に際しては必然的にある程度の自然の改変・破壊を伴う。各種構造物の建設に際して対象域は鉄・セメント・石油化学製品などの非生物的材料による人工環境の占める割合が増大する。

今日では、すでに周辺部の自然環境を現状に復帰させれば事足りる時代は終わっている。積極的に立地本来の植生などの生きた構築材料：**Lebendiger Baustoff** を使いきった、多様で安定した生物学的な自然環境や自然に近い環境を創造する時代である。また、いわゆるアセスメントに加えて、工事後あるいは各種エネルギー産業諸施設の稼動によって、現実にとどのような影響が周辺の植生や生物的自然環境にもたらされるかの具体的な追跡調査をも行うことがもっとも間違いの少ない真のアセスメントのはずである。

とくに、移動能力のない植物種群の組み合わせから形成されている植生や植物群落の継続的な定期調査・測定によって、建設された発電所、各種施設あるいは道路などの直接、間接の影響が周辺部にどのように働いているかを把握できる。このような生物学的、生態学的な環境影響の評価は、同一植生や地区を対象とした定期的な継続測定が前提となる。

本報は福井県大飯郡高浜町の音海半島に位置している関西電力(株)高浜原子力発電所サイト内の発電機増設による環境への影響評価の一環として行われた調査結果である。昭和53年(1978年)5月より昭和56年(1981年)3月までの6次の永久方形区による植生動態測定・調査結果に引き続いて、昭和58年(1983年)6月の第7次、同年9月の第8次、昭和59年(1984年)4月の第9次調査結果についてまとめられている。

さらに、今後も継続的な植生動態調査が同じ永久方形区で行われ、さらに確実な環境影響評価、積極的な植生復元、よりよい環境創造の具体的な成果が測定されるように強く望まれる。

現地調査に際して御協力いただいた関西電力株式会社および関西総合環境センターの皆様には謝意を表したい。

# 目 次

はじめに

I . 地域概況	1
II . 発電所建設に伴う影響評価の手法	4
III . 高浜原子力発電所における永久方形区の選定と位置	5
IV . 調査日程	9
V . 調査法	10
1 . 植生調査	10
2 . 組成表の作成	13
3 . 群落動態の解析	13
VI . 調査結果	14
1 . 群落動態区分	14
2 . 階層別群落構造図	43
3 . 群落断面模式	59
4 . 動態に関する考察	70